

# サッカーくじの予想分布について

明海大学 新井啓

報告者である新井は証券市場における取引者の予想形成に関する研究を行ってきた。本大会でも過去に 2009 年と 2010 年に予想についての報告を行っている(新井[2009][2010])。両方の報告共に経済モデルから日経平均先物市場で取引を行う各証券会社の予想分布のパラメータを推定するものである。しかしながら、標本の大きさが小さいという問題があり、極端な値が求まってしまうという欠点が生じていた。証券市場以外でもいいので標本の大きさのある程度確保して、多くの人々が興味を持つようなものを対象とした予想の特徴を明らかにできないものか？それがサッカーくじの予想であった。

サッカーくじ(toto)のホームページには毎回のホームの勝ち[1]、その他[0]、ホームの負け[2]の投票割合の試合別データが掲載されている。toto 予想.com[2016]ではこの投票率を 10%刻みで分割し、サッカーくじの予想への適応可能性を示しているが、チーム別のものではなく、年度別に J リーグ全体で集計した値になっている。

本報告では日本の J リーグのサッカーくじについての投票率のデータをチーム別にみるとどのような特徴があるのかを明らかにする。またチーム別に見た場合に予想的中率に特徴はあるのかも明らかにする。シーズンの開幕当初は各チームの戦力に関する情報は少ないが、シーズンが進むに従い、新たな情報が加わり情報の少ない時点における勝敗の予想とは異なる予想になることも考えられる。すなわち学習効果が働いて、最も投票率の多い予想は的中することが多くなる傾向にあるのかについても明らかにする予定である。分析の対象の年度は 2015 年である。J2 については標本の大きさが著しく小さいために、J1 のチームを対象を絞って、上記の特徴を明らかにする。

## 参考文献

[1]toto 予想.com[2016] 『toto 予想 攻略データブック (2016 年対応版) : toto 予想に必要な基本データが丸わかり!』, Amazon.

[2]新井啓[2009] “異質的期待仮説に基づく予想株価確率分布の期待値の測定” 統計関連学会連合大会、同志社大学.

[3]新井啓[2010] “個別証券会社の予想株価確率分布の標準偏差の測定” 統計関連学会連合大会、早稲田大学.